那覇 ポートガイド
Naha Port Guide

首里城の守礼門

シャトルバスの運行

船内新聞でご確認ください

帰船時間（自由行動の方々）

船内新聞でご確認ください

観光情報は、こちら！

那覇市観光案内所
電話098-868-4887
FAX098-868-5243

船舶代理店

沖縄シップスエージェンシー
〒900-0035 沖縄県那覇市通堂町2-1
那覇港ターミナル2F
電話098-866-7890
FAX098-866-7096

那覇港は今から約500年前、初めて三山（沖縄本島）を統一した尚巴志（しょうはし）が、中国との交易船の出発地点として開いたのが始まりといわれています。琉球王国の表玄関として、中国をはじめ東南アジア、朝鮮、日本との交易の拠点として発展してきました。

那覇港は九州から約650㎞、台湾まで620㎞、上海まで820㎞に位置する沖縄本島にあり、東シナ海の東西の中央に位置しています。

クルーズ専用バースの那覇港泊ふ頭8号岸壁（若狭バース）には、台湾から定期的に寄港する大型クルーズ船をはじめ、主に海外からのクルーズ船が数多く入港します。那覇港は2009年、外国客船の寄港数が日本一となったことから全国トップクラスの外国クルーズ船の受入港となっています。

2011年には那覇空港と若狭を結ぶ「那覇うみそらトンネル」が開通し、空港から若狭バースまでの所要時間がわずか10分となりました。この海と空がつながったことにより、日本クルーズ船の那覇発着となる「フライ＆クルーズ」の新しい旅のスタイルを実現しました。

若狭バース周辺には、新鮮魚介類がその場で召し上がれる泊魚市場、波の上ビーチ、波の上宮、中国式庭園づくりの福州園、対馬丸記念館があります。ダイビングやシュノーケル専用ビーチを備えた「波の上うみそら公園」は、那覇港の海でサンゴ95種類、魚類53種、大型底生動物28種類などが見られる注目の観光スポットで、沖縄の新しい海の玄関口として期待されています。

かつて、那覇市は港町として発展した歴史があります。現在も若狭バースから徒歩約20分の圏内にはお土産店、飲食店が集まる国際通り、壺屋焼きの窯元が集まる壺屋やちむん通り、沖縄の昔ながらの面影が残る那覇市第一牧志公設市場などの観光スポットが点在しています。

南国ムードがたっぷり、国内外からさまざまな人、もの、文化が流入し、交流の場としてにぎわうロマンにあふれる街です。

❶ 国際通り

那覇中心地を貫くこの通りは、復興のシンボルとして「奇跡の1マイル」といわれています。戦前は畑や雑木林が散在する寂しい野中の一本道でしたが、戦後は人口が流入し、住宅や店舗がひしめく那覇のメインストリートに。お土産品店、飲食店、ホテルが軒を連ね、日曜日には12時～18時までトランジットモール（歩行者天国）が実施されます。長さ1.6kmの道をのんびり散策できます。多くの国内外観光客がショッピングやグルメでにぎわう、南国ムードあふれる沖縄一の繁華街です。

❷ 牧志公設市場

戦後、那覇市が復興に着手した際、牧志一帯を流れているガーブ川沿いのヤミ市から始まった市場を整理して、公設市場として再生しました。周辺一帯は商活動が活発化し、若者もおじー、おばーも昼夜に拘わらず元気いっぱいに働き、今日の中心市街地を形成しました。地元で採れた旬の野菜や水揚げたばかりの新鮮な魚介類、沖縄県産の肉類など、あらゆる沖縄の食材がそろう沖縄の台所です。1階で購入した食材を2階の食堂で調理してもらえるサービスもあります（有料の場合も）。

❸ 首里城跡

琉球王国成立の1429年から1879年の沖縄県設置まで約450年にわたり、琉球王国と呼ばれた時代の国王の居城であり政治の中心地。首里城は北京の紫禁城に似せて造られた説がある一方、日本のみならず中国や朝鮮半島諸国にも類例がない琉球独自の様式が見られます。1945年の沖縄戦で完全に焼失しましたが、1992年に正殿、城壁、門などが復元されました。琉球王朝の浪漫を今に伝え、琉球王国の栄華の証が体験できる首里城跡。「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として、2000年に世界遺産に登録されました。

❹ 識名園

琉球王家最大の別邸で1799年に創建（別名南苑・なんえん）。国王一家の保養地や、中国皇帝の使者である冊封使を接待するためにも利用され、王府の外交面において重要な役割を果たしました。池の周りを歩きながら景色の移り変わりを楽しめるように造園した「回遊式庭園」が特徴。

また、中国風の六角堂や琉球石灰岩を用いたアーチ橋が配され、琉球独自の工夫が見られます。国の指定特別名勝と世界遺産にも登録された「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つです。

❺ 壺屋やちむん通り

「やちむん」とは沖縄方言で焼物のこと。薩摩より朝鮮人陶工を招いて、湧田窯にて本格的な焼物が始まりました。琉球王府による知花窯、宝口窯、湧田窯が統合されました。この通りはその発祥地です。約400メートルの石畳の道には、壺屋の窯元直営店が軒を連ねます。素朴さの中に温かみと風格を持ち合わせた伝統的な風合いが特徴で、シーサー、花器、食器などの日用品が主に作られています。窯元の見学や陶器工房での焼物体験も楽しめます。現存する最古の登り窯も見ることができます。

足を延ばして

❻ 那覇新都心

旧米軍用地跡の再開発で誕生。大型ショッピングセンターや運動公園、沖縄県立博物館・美術館の歴史文化関連施設、国内で唯一路面型DFS免税店まで、充実したビジネスやショッピングエリアとして発展しています。地元の大型スーパーをはじめ、全国展開チェーン店、家電量販店、ファッション、飲食、カラオケ、映画館など県内最大規模の広域型エンタテイメント＆ショッピングセンターが集まっています。

歩いていけるビーチ

❼ 波の上ビーチ

那覇市の西ベイエリアに位置する、市内唯一のビーチ。このあたりから見るサンセットは最高で、落日のひととき、ゆったりシティリゾート気分を味わえます。国際通りまで歩いて15分と市街地にあるので、観光客の方も気軽に足を運ぶことができます。若狭バースから歩いても5分、「波の上うみそら公園」と隣接し、海水浴、ビーチパーティー、バーベキュー、ダイビングなどが楽しめます。

港までの所要時間

①国際通り	■沖縄都市モノレール「県庁前駅」・「牧志駅」から約1分。
②牧志公設市場／⑤壺屋やちむん通り	■バス市内線「三越前」「松尾1丁目」、市外線「牧志」「松尾」バス停から約10分。
③首里城跡	■沖縄都市モノレール「首里駅」から約15分。市内線バス1番・14番・17番、市外線バス46番、首里城下町線8番の「首里城公園前」から約5分。
④識名園	■市内線バス2番・3番・5番バス「識名園」バス停から約2分。
⑥那覇新都心	■サンエーメインプレス・りうぼう楽市へは沖縄都市モノレール「おもろまち駅」から約5～10分。
⑦那覇空港から	■車で約10分、那覇新港8号埠頭若狭バースから徒歩約5分。

※各交通機関は交通事情等により定時運行ができない場合がありますので、時間の余裕をみてご利用ください。

※2014年4月供用開始

那覇 おすすめグルメガイド

沖縄は、独特な食文化を持っています。美味しい物は体にもいいものです。体に良い食べ物はクスイムン（薬物）とも言います。これは医食同源の発想です。古くから豊かな自然に産れた食材を、伝統的な料理法で作り上げてきた食文化は、長寿の島の土台になりました。

ゴーヤーチャンプル

ビタミンCをたっぷり含んだゴーヤー（和名：ニガウリ）は夏野菜の王様。豆腐や卵と炒め、ほんのりとした苦味も一度食べたらやみつきに。夏バテ防止には欠かせない夏の定番沖縄料理です。

タコス・タコライス

戦後米軍が持ち込んだメキシコ料理のタコスは、今や沖縄でも名物料理。タコライスはタコスの挽肉、チーズ、トマト、レタスなどの具を米飯の上に載せて、トマトベースの赤いサルサをかけて食べる沖縄のオリジナル料理です。

やんばる島豚あぐー

琉球在来種の黒豚、一時期絶滅しかけ、近年復活した「幻」と呼ばれる希少の豚。柔らかくて美味しい、脂身の香ばしさと甘く口で溶ける食感。コレステロールは外来種の4分の1で、ビタミンB1が豊富。とてもヘルシーな豚肉料理は、イベリコ豚に負けません。